

～六甲山の森づくりと木づかいを学ぶ～
唐櫃・六甲山上・森林植物園ツアー

令和4年3月21日（月・祝日）

神戸市建設局防災課

はじめに

山

KOBE

— 森を守り育てることは、人を守り育てることであります

森林には土砂災害を防止する機能があり、
また、地球温暖化の防止や、豊かな水をはぐくむ水源となるなど、
人々の暮らしに広く恩恵を与えています。

適切な森林の整備を進めていくことは、
人々の豊かな暮らしや生命を守ることにつながります。
また、伐採した木材を適切に使うことも豊かな森林の維持につながります。
今回はそのような取り組みを紹介します。

神戸市の森林の現状

山

KOBE

○神戸市の森林の現状

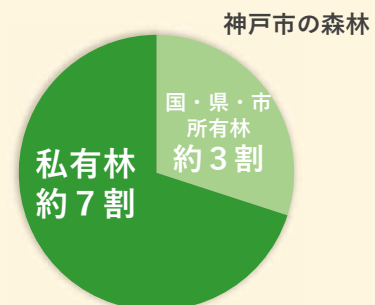
神戸市内の森林のうち、約3割が国・県・市の所有地で、残りの約7割が私有林です。

担い手の不足などにより、私有林の多くは森林の維持・管理が難しくなっています。森林の管理が不足すると、防災機能も生物多様性も低くなってしまいます。

持続可能な社会の構築のためには、森林を適切に整備することが必要不可欠です。

○私有林の整備

神戸市では、管理不足の私有林を対象に県民緑（みどり）税や森林環境譲与税を活用して森林整備や木材活用等に取り組んでいます。



森林整備を支えるさまざまな財源

山

KOBE

○県民緑税

兵庫県は平成16年の風水害の被害を踏まえ、森林の防災面での機能強化を早期・確実に進めるため、平成18年度より「県民緑税」を導入し、災害に強い森づくりや、環境改善や景観の向上を目的とした都市の緑化に取り組んでいます。

- 神戸市域では、この「県民緑税」を活用して、六甲山等の森林整備と都市の緑化に取り組んでいます。

○森林環境税及び森林環境譲与税

温室効果ガス排出削減や、災害防止のための安定的な森林整備等を進められるよう、平成31年3月に「森林環境税」と「森林環境譲与税」が創設されました。「森林環境税」は令和6年度から一人当たり1,000円の課税が開始されますが、森林整備が喫緊の課題であることを踏まえ、「森林環境譲与税」として令和元年度から各都道府県、市町村に配分が開始されています。

- 神戸市では「森林環境譲与税」を活用して、市域全域の森林の継続的な整備、人材育成、木材活用、普及啓発などに取り組んでいます。

神戸市では、上記のような財源や、神戸市の自主的な財源を組み合わせながら森林整備に関するさまざまな事業を進めています

唐櫃地区での取り組み

山

KOBE

○唐櫃地区

神戸電鉄有馬線沿線の南側、六甲山系の北側斜面に位置する、北区有野町唐櫃周辺のエリア



明治～昭和にかけて植林された人工林や古くから利用されてきた里山林が広がっており、地域の方々や林産農業協同組合などの所有による私有林が大半を占めています。

林業の衰退や高齢化による担い手の不足といった課題を抱えながらも、自分たちの先祖から受け継いだ森林を含む自然環境を、次の世代にも引き継ぎたいという想いから、地域として森林の維持・管理に取り組まれています。

神戸市としても、災害防止などの観点から、さまざまな財源を用いながら、森林整備などの事業に取り組んでいます。

唐櫃地区での取組み

山

KOBE

○里山林の整備（県民緑税と森林環境譲与税を活用）

北区有野町唐櫃の風呂が谷と呼ばれるこのエリアは、下唐櫃の集落に近い森林で、昔は薪を採ったりして使われてきました。今は竹が繁茂したり手入れが行き届かなくなっていたため、間伐などを行いました。



令和元年度県民緑税事業里山防災林整備
令和3年度森林環境譲与税事業
(北区有野町唐櫃)

整備のポイント

県民緑税事業「里山防災林整備」や森林環境譲与税を活用して、人家裏の危険木の伐採や、集落近くの里山で過密になった広葉樹林やスギ林の間伐を行ったり、また、土留めを実施するなどし、災害に強い森をつくるための整備を行いました。また、カシノナガキイムシという虫による病害（通称「ナラ枯れ」）も発生していたことから、被害木の伐採と駆除を行います。

唐櫃地区での取組み

山

KOBE

○スギ・ヒノキ人工林の整備（県民緑税と森林環境譲与税を活用）

北区有野町唐櫃の清水が原と呼ばれるこのエリアは、所有者の方が植林された森林が広がっています。ここでは間伐作業や間伐した木材の搬出を行いました。



整備前



整備後

令和2年度森林環境譲与税事業（北区有野町唐櫃）

整備のポイント

所有者の方々の手で枝打ちなどの維持管理が行われてきましたが、木々が密集し、下層植生が乏しくなっていました。このままでは土砂災害などが起きる可能性があるため、県民緑税事業や森林環境譲与税事業で間伐を実施しました。

また、ここで伐り出した木材は、新中央区総合庁舎などに使われています。

唐櫃地区での取組み

山

KOBE

○林道の補修（森林環境譲与税を活用）

竹谷林道と呼ばれるこの林道の周囲には、植林された森林が広がっており、この森林の管理のために林道が使用されてきました。これまで、災害のたびに被害を受け、車両の通行などに支障が出ていたため、修繕しました。



整備前



整備後

令和2年度森林環境譲与税事業（北区有野町唐櫃）

整備のポイント

適切な森林の管理には、森林にアクセスするための林道が必要です。

また、林道は、木材の搬出と活用も可能にします。

今後は、周囲のスギ林の間伐作業を行うとともに、伐採した木材の搬出を行うことを所有者の方々と相談しています。

木材活用の取組み

山

KOBE

○木材の活用

木材を活用することも、適切な森林整備につながります。

戦後植林されたスギ・ヒノキや、昔は薪などに使われていた広葉樹林は、林業の衰退や経済構造の変化などにより、今ではあまり使われなくなりました。その結果、管理が不十分な状態になっています。林業基盤が小さい神戸市では、森林整備から木材活用までを繋げられる事業に取り組んでいます。

木材活用の取組み

山

KOBE

○兵庫県立六甲山ビジターセンター

木材活用のポイント



2018年に改修された際に、唐櫃の里山林で伐採したコナラ材を加工した床板材が使われています。ここでは、コナラをスギ合板に貼り付けることで、強度を高め、寸法安定性の高い床板材として活用されています。

○神戸市立森林植物園



木材活用のポイント

1940年に起工した森林植物園には、世界のいろいろな樹木が植栽展示されています。その中で昨年の春に間伐を実施した中国原産のコウヨウザンや、森林病害虫の被害を受け伐採したコナラを展示館の床材の改修に活用しています。

木材活用の取組み

山

KOBE

○六甲山最高峰トイレ



木材活用のポイント

六甲山最高峰トイレは、六甲山最高峰エリア整備の一環として2021年に新設されました。このトイレのベンチや外壁の一部には、六甲山の森林整備で発生した六甲山材が使われています。また屋根や、その他のベンチ・外壁についても兵庫県産や国産のスギ・ヒノキが使われており、木のぬくもりを感じながら、利用者が憩える空間として、2021年のウッドデザイン賞も受賞しています。

人材育成の取組み

山形

KOBE

○人材育成の取組み

将来の森林整備に携わる造園事業者などを対象にした、森林整備に関する事業者研修会などを実施し、人材の育成に取り組んでいます。

森林整備に関する事業者研修会



森林整備の普及啓発の取組み

山形

KOBE

○普及啓発の取組み

山・森・木に親しむきっかけをつくり、森林や森林整備の大切さを知ってもらうため、森林整備体験や、森林整備に関する現場を巡る見学会等のイベントを実施しています。



木こり合宿
(こうべ六甲山私有林研究会が開催)

私有林見学会



取組み推進のための仕組みづくり

○こうべ森と木のプラットフォーム

将来にわたって神戸の森林整備や森林資源の活用を進めていくためには、森と木に関わる様々な人をつなぐ仕組みづくりが必要です。神戸市ではこれを仮に「こうべ森と木のプラットフォーム」と呼び、その実現に取り組んでいます。

こうべ森と木のプラットフォーム
(イメージ図)

